

50歳も過ぎれば否応なく我が国の歴史を振り返るものなのであるうか。広島に原爆が投下されて70年が経過した平成27年8月6日、私はグアム戦の戦跡を訪れるため、グアム島にいた。

第一次世界大戦後、マーシャル諸島、

グアムを除くマリアナ諸島は日本の委託統治領となった。サイパン、テニアン、パラオなどがこのときに日本の統治領になっている。他方、グアム島はいわゆる米西戦争においてアメリカ合衆国が勝利したことにより1898年にアメリカ合衆国の領土となった。日本軍が真珠湾攻撃を行ったわずか2日後にグアム島を占領したのは、サイパンからわずか200キロ程度の距離にアメリカ合衆国の領土、グアム島があったからである。

昭和18年2月に日本軍がカダルカナル島の戦いに負けて壊滅すると、日本はサイパン、グアム、テニアンのマリアナ諸島を絶対国防圏として戦力の増強を進めた。他方、米軍は、長距離戦略爆撃機として開発途中であったB-29が配備されればグアムか

ら日本全土に空爆ができる状況にあり、台湾、沖縄などを攻略するための前線基地としてグアム、サイパン、パラオは最重要拠点と考えられた。しかも、グアム島はアメリカ合衆国が戦争により唯一失った領土であり、同地を取り戻すことはアメリカ合衆国の名誉回復に繋がっていた。

昭和19年6月11日、米軍はサイパン島に対して空爆を開始し、同月13日には艦砲射撃が行われ、15日には上陸を開始し、同年7月7日、サイパン島守備軍は全滅。そして、同月21日、米軍はグアム島の上陸を開始した。グアム島からの生還者である元日本兵の話によると、サイパン島への艦砲射撃によって夜空は赤く染まり明るかったそうだ。同年7月25日未明、小畑英良第31軍司令官は、全軍に対してマンガン山から米軍が集結するアサン海岸に向かって突撃する総攻撃を命じた。昭和47年2月2日に帰国した横井庄一氏を含めた生還者はわずか1305名、日本軍守備隊総員2万1800人のうち約94%以上の日本兵がグアム島で戦死または戦病死してしまった。

私はマンガン山からアデラップ岬

があるアサン海岸を見下ろした。函館山よりも少し高い山であろうと思っ。いまから約71年前、アサン海岸までの起伏のあるジャングル地帯を突き進み、弾薬もほぼ尽きて弾も装填されていない銃を担ぎ日本兵は白兵突撃を行ったのである。その現場が目の前に広がっていた。自分の周囲にいまも数え切れないほどの日本人の遺骨が眠っていることを決して忘れてはならないと思った。声なき声がいまも木霊し、とても優しくゆっくりと身体に染みわたってくる感じがした。ツアーを企画して下さった方から、「日本からよく来てくれたね、とみんなが言ってくれていると思うよ」との言葉をかけて貰った時、自然と涙が流れてきた。もっと早く訪れるべき場所であると思った。

最後に、阿部孝壮海軍中将のことに触れたい。昭和17年8月17日、ギルバート諸島マキン環礁に奇襲攻撃をかけた米海兵隊と日本軍守備隊とがぶつかり、米兵9名が捕虜となった。その後、内地（日本国）に移送する予定だったが、昭和17年10月になると、現地の第6根拠地司令部

は米軍の侵攻に備えて捕虜の取り扱いを早急に決定する必要に迫られ、何度も大本営及び第4艦隊司令部に指示を仰いだが一向に返答もなく苦慮していた。そこに、偶然視察に訪れていた大本営参謀岡田貞外茂海軍大佐に対し第6根拠地司令部司令官阿部孝壮が意見を求めたところ、現地で処分するようにと指示がなされ、その指示に従って9名の捕虜は同月19日に処刑された。

戦後、このことが戦時国際法に違反するとされ、阿部孝壮がBC級戦犯として日本からグアム島に移送された。昭和22年6月19日に絞首刑となった。阿部孝壮は、自分に指示を出した者の名前などを一切語らず、進んですべての責任を背負い、「天皇陛下万歳！」と叫んで処刑された。遺書は遺族に渡されたが遺骨は今も戻っていない。もう少しでこの処刑場跡は我が国の予算で米兵及びその家族の住む住宅の敷地となり日本人には開放されなくなる。グアムでの裁判は29件にも及び、少なくとも日本軍人が死刑となった。荒地地の処刑場跡を目の前にして手を合わせ、慰霊碑を建立したいと思った。

律談 46
法相 R

グアムへの慰霊の旅について

高橋 司 たかはし・つかさ

弁護士。1963年生まれ。北海道大学大学院法学研究科修了。「高橋・日浦法律事務所」代表。